

行政視察報告書

令和7年1月沖縄県視察

視察実施日（期間）：令和7年1月21日～1月23日

会派：自民新未来会、こども未来会

作成者：吉野誠

目次

1. 視察の概要
2. 行政視察先1：糸満市
3. 行政視察先2：名護市
4. 現地見学：平和通り商店街
5. 現地見学：CABIN&HOTEL CONSTANT NAHA
6. 現地見学：糸満市場いとま〜る
7. 現地見学：道の駅許田
8. まとめ

1. 視察の概要

視察の目的:

1. 糸満市で行われている「市民提案型まちづくり事業補助金」や「まちテラス」の運営を学び、水俣市での地域活性化施策や市民参画型の参考とすること。

特に、行政が直接ではなく中間支援機関を通じて市民活動を支援する仕組みが実際どのような運用がされていて、どのような効果があったかを知るため。

2. 名護市で実施されている小中一貫教育および地域連携の取り組みを学び、自市の教育環境改善や地域活性化施策に役立てるため。

2. 行政視察先 1：糸満市

糸満市の概要

人口：約 6 万 2 0 0 0 人（増加傾向。ただし近年は停滞も見られる）

沖縄県内 11 市 8 番目の人口規模。沿岸部と内陸部を有し、都市と農村の両方の特徴を併せ持つ。沿岸部は埋め立てによる都市化、内陸部は大規模開発が制限されている。

主な産業は漁業、農業はマンゴー、パッションフルーツ、ニンジンなど。観光としては平和記念公園や地下壕があり、修学旅行生や観光客が訪れる

市民提案型まちづくり事業補助金について

担当：市民生活環境課より説明

1. 財源について

本事業の財源は、平成 21 年度以降に計上されている一般財源や、地域貢献を目的としたふるさと応援基金により確保されている。また、令和 7 年度以降はふるさと納税の活用や他の財源の検討も進められている。補助金額については、通常年間約 100 万円が充てられているが、50 周年記念事業では特別に 500 万円まで増額した実績がある。

事業運営を担う市民活動支援センター「まちテラス」には、別途 700 万～800 万円の予算が計上されており、4 名体制で運営されている。このうち正職員は代表 1 名、他の 3 名はパート職員として雇用され、人件費に充てられる。

2. 市民と「まちテラス」との関係

まちテラスは、市民活動支援センターとして市から委託を受け、地域社会と行政をつなぐ橋渡し役を担う。目的は「市民力の強化」であり、市民の自発的な活動や地域課題の解決を支援する仕組みを構築する。市民活動団体と行政のつながりを強め、協働によるまちづくりを推進する中間支援機関としての役割を果たしている。

3. 市民提案の傾向

市民からの提案は多様で、地域課題の解決を目的とした実践的な内容が多い。

仕組みとして提案は、新規の取り組みを模索する「スタートアップ型」と、既存の事業を発展させる「ステップアップ型」に分類される。これらの提案を通じて、地域社会の活性化や市民活動の幅を広げる効果が期待されている。

4. 事業の効果

地域コミュニティの活性化が図られ、市民同士の連帯感が強化されている。

人と人とのつながりが深まることで、地域経済にも一定の効果が期待される。これらの取り組みは、地域住民の主体性を高め、持続可能な地域社会の実現に貢献している。

質疑

1. 地域活性化と行政の課題

- 行政と市民の接点が少ない中、センターを通じて市民提案を実現させる仕組みが評価されている。
- センターの役割として、通常では繋がらない市民同士や行政との橋渡しを行い、子どもを含む地域課題の解決を図っている。

2. イベント運営と審査体制

- イベント情報連絡会議や審査のメンバーは、センターが任命権を持ち、現場で活動している人に直接声をかけて選出している。
- 偏りを防ぐため、行政メンバーは1名に限定されている。
- イベントの調整機能については、開催日程が近いイベントを統合し、規模を拡大することで集客力を向上させる取り組みが行われている。

3. 補助金と継続性のある支援

- 補助金はイベント1回で終わるものではなく、継続可能な団体への支援を重視している。
- 同じ団体が補助金を受けられるのは2回までと制限し、ステップアップを促進する仕組みを整備している。
- 継続性については、NPO 法人や一般社団法人が比較的事業を続ける傾向が強い一方で、民間的な市民団体ではボランティア形式の活動が望まれる場合も多い。

4. 市民の声の収集と公平性

- 市民の意見は意見回収やレビューを通じて反映されており、プロポーザル方式も採用されている。
- 委託事業所が1か所だけであるため、小さな声を拾いきれないという課題がある。
- 糸満市内には5つの支部があり、それぞれに役割を持たせたい意向はあるものの、現在は予算などの制約から1か所に限定されている。

5. 若年層の活性化

- 中高生などの若年層を対象とした地域活性化施策に力を入れている。

所感

糸満市の市民提案型まちづくり事業補助金と「まちテラス」の取り組みは、「みんなの力を集めて地域を良くしていこう」という考えをもとに進められている。この仕組みでは、市民一人ひとりのアイデアや行動を応援し、地域の課題をみんなで解決することを目指している。

「まちテラス」は、市民と行政をつなぐ役割をしていて、イベントの運営委員などを選ぶ権限を持ちながら、地域の人たちと直接話をし、つながりを広げている。このような活動によって、地域の現場で起きていることを行政がもっとよく理解できるようになっている。

また、イベントをまとめたり、開催時期を調整したりすることで、地域の人たちがもっと集まりやすくなる工夫もされている。さらに、中学生や高校生を対象にした地域活性化の取り組みもあり、若い世代が地域づくりに参加できる場が増えているのも素晴らしい。

糸満市のこのような取り組みは、行政と市民が一緒になって地域を良くする理想的な形だと感じた。「みんなの力を強くする」という考えを大切にしながら、行政と地域の人たちの間に立って活動する姿勢は、とても参考になる。この経験をもとに、自分たちの地域でも、課題を解決したり住みやすい街をつくったりするための取り組みを進めていきたいと思う。

3. 行政視察先2：名護市

市の概要

人口約6万4000人、1970年に名護町、屋部村、羽地村、久志村、屋我地村の5町村が合併して誕生した。沖縄本島の北部に位置し、北部地域では最も多くの人暮らししている。農業生産高が県内でも高く、多品目の農作物が栽培されている。畜産業では鶏卵やブロイラー、養豚などの生産が盛んである。市土の大部分を占める森林では、林業組合を中心に水源涵養林の植林が進められている。6つの漁港を有し、豊かな海洋資源を活用しつつ漁業の振興にも取り組んでいる。

自然環境に恵まれ山・川・海を有し、リゾートホテルやビーチ、観光施設が市内全域に点在する。平成28年の観光客数は年間約436万人に達し、そのうち約127万人が宿泊施設を利用している。

担当課より説明

事前質問への回答

1. 小中一貫校を開校することになった経緯

名護市の小中一貫校の開校は、4つの小学校を統合し、複式学級を解消することを目的とし

て進められた。複式学級では授業の質を十分に確保することが難しく、統合後には特色ある教育を取り入れることで、より効果的な教育環境を提供するために、小中一貫校の導入が決定された。

2. 小中一貫校の開校に向けた教育委員会の取組

教育委員会は、複式学級の課題解消を目的として審議会で協議を重ね、その計画を保護者や地域住民に説明した。地域全体の理解を得るため、「小中一貫だより」を活用し、統合準備の進捗状況を定期的に周知する取り組みも行った。

3. 小中一貫校設置後の成果

小中一貫校の設置により、複式学級が廃止され、安定した教育環境が確保された。学校間の文化や連携が統一され、教員間の意識共有が進み、学習成果や地域学習の一貫性が向上する成果が得られている。一方で、市としての特別な予算負担が増加する課題もある。

4. 小中一貫校には予算上のメリットはあるか

教員の配置は県が担当しているため、県には教員数削減のメリットがある。しかし、市としては特別な配置や運営費を負担しており、予算上の持ち出しが多い状況となっている。

5. 小中一貫校教育ならではの指導方法や取り組み

小中一貫校では、学年ごとに役割を持たせたリーダー育成が行われている。4年生、6年生、7年生（中1）が主なリーダー役を担い、行事や授業を通じてそれぞれの役割を果たしている。また、小中合同で総合や道徳の授業を行い、文化の違いによる壁を取り除く工夫がなされている。

6. 4-3-2 制の採用理由と効果

4-3-2 制とは、前期4年（小学1年生～小学4年生）、中期3年（小学5年生～中学1年生）、後期2年（中学2年生～中学3年生）と、教育課程を3つのブロックに分ける制度。4-3-2 制の導入により、小学5・6年生と中学1年生が情報を共有しやすくなり、中1ギャップを解消している。この制度は、小学生から中学生への移行をスムーズにし、中1生がリーダーとして成長する機会を提供する仕組みとして高く評価されている。また、授業や学習内容が系統立てられ、学びの質が向上している。

7. 学び合いの効果

小中一貫校では学び合いを重視し、小学生と中学生が合同授業でお互いに教え合うことで学びのモチベーションが向上している。中学生が模範となりリーダーシップを学ぶ一方、小学生が中学生に憧れる環境が作られており、世代間のつながりが強化されている。さらに、

子ども同士の関わりを通じて、不登校を克服する事例も生まれている。

その他の質疑として

メリットとデメリットについて

小中一貫校のメリットとして、学年を超えた子どもたち同士の交流が活発に行われ、互いに関わり合いながら学ぶ環境が整えられている点が挙げられる。特に中学生が自然体でいられることがとても良いという事を強調されていた。

また、学習内容や生徒指導に一貫性が生まれ、児童・生徒の成長が効率的にサポートされている。さらに、学年ごとに役割を持たせることでリーダーシップを学びながら成長する機会が提供されている点も特徴的である。

一方で、デメリットとして、多様な事情を抱えた転入生への対応において高度な教師の力量が求められることや、保護者対応やクレーム処理に追われる負担が挙げられる。また、生徒の65%が校区外から通学していることにより、PTAやコミュニティ活動の編成に工夫が必要であるなど、課題も存在しており、とても気をつかった部分だったとの話であった。

部活動に関する取り組み

部活動の過熱を防ぐために活動時間の制限を導入している。また、暴力やハラスメントの根絶を目的とし、顧問や外部コーチが適切に指導を行えるよう研修を実施している。これにより、部活動の健全な運営と生徒の安全を確保している。

一方で、部活動の地域移行については、名護市ではまだ積極的な取り組みは進んでいないものの、他自治体の事例を参考にしながら今後の方針を検討している。

所感

名護市の教育に対する取り組みは非常に充実しており、複式学級を解消するための工夫を凝らし、現在の小中一貫校の形が整備されている。これを推進した人々の努力が認められ、実現に至ったことは非常に意義深い。現在の取り組みは、教育環境の向上において模範的なモデルとなっている。

説明をしてくださった職員の方は、屋我地ひるぎ学園で教頭として勤務していた経験を持ち、熱心に説明を行っていた。その説明から、子どもたちにとってこの取り組みが非常に良い環境を提供していることが伝わってきた。特に縦のつながりが強く、1年生が上級生に憧れを抱き、8年生や9年生が下級生の面倒を見てお手本となる関係が機能している点は、教育の中で大きな成果を上げている。さらに、4-3-2編成によって、それぞれの段階でリーダーになる機会を与え、子どもたちの責任感を育てる仕組みが効果的に作用している。

教員数の圧縮は、教員不足が課題となる県にとって大きなメリットをもたらしている。しか

し、教職員以外の職員を配置する必要が生じ、市の負担が増えるという課題がある。この点については、効率的な改善を考える必要がある。

また、英語教育に魅力を感じて入学した家庭と、特認校の少人数制を求める家庭ではニーズが異なるため、すべての家庭が満足できる学校環境を整えるには、教職員の柔軟な対応が必要となる。

名護市の取り組みをそのまま水俣市に導入することは難しいだろうが、視察を通じて学校運営の在り方についての視野を広げることができた。こうした知見を今後の取り組みに活かし、地域に適した教育環境を整備するための参考としたい。

4. 現地見学：平和通り商店街

概要：平和通り商店街は、那覇市のメインストリートである国際通りから一本入った場所に位置するアーケード街。戦後、露天市場から始まり、現在では衣料品、食品、土産物店、飲食店など多彩な店舗が軒を連ねている。アーケード内は、昭和レトロな雰囲気と新しい店舗が融合し、地元の人々や観光客で賑わっており、奥へ進むと地元向けの生活用品店や飲食店が増え、沖縄の日常生活を垣間見ることができる。また、近年では新しいバーやレストランの出店により、那覇市内随一の飲食街へと変貌を遂げつつある。



所感：

有名な国際通りから一步入ると、全く異なる雰囲気が広がる。小さな店が立ち並び、生活と観光が交錯する独特の空間が形成されている。商店街内には開店準備中の店舗も多く、新しい店よりも、古い建物の雰囲気を活かした店舗が目立つ。多様な店が営業することで、自然な賑わいが生まれ、この雰囲気自体が観光資源となっている。

商店街全体で統一された雰囲気があることは、街の魅力を高める大きな要素となる。では、その雰囲気は何をもとに作られるのか。それには、歴史や地域の哲学といった背景が重要になる。そこに関わる人々が共通した価値観や意識を持つことで、街全体に統一感が生まれ、

それが強い個性や魅力へとつながっていくのではないかと考える。

5. 現地見学：CABIN & HOTEL CONSTANT NAHA

概要：CABIN & HOTEL CONSTANT NAHA（キャビン&ホテル コンスタントナハ）は、那覇市の平和通り内に位置し、国際通りから徒歩約5分の距離にある宿泊施設である。この立地により、観光やビジネスの拠点として非常に便利である。

ホテルでは食事の提供を行っておらず、近隣の商店街での食事や購入を推奨している。これにより、地元の商店街との連携を図り、地域活性化にも寄与している。

宿泊料金は用途やニーズに応じて設定されており、リーズナブルな価格での宿泊を希望する人から、ゆったりとした滞在を求める人まで、さまざまなタイプの客室を用意している。1名利用のキャビンタイプから、複数名で利用可能な客室まで、多彩な選択肢がある。

館内には大浴場やサウナを完備し、宿泊者は無料で利用できる。女性専用フロアも設けており、セキュリティ面でも安心して滞在できる。

支払い方法は、クレジットカードやQRコード決済に対応し、現金での支払いには手数料が発生する。事前にインターネットで予約し、決済を完了することも可能である。



■キャビンB	1名1室	¥3,000 (税込)
■キャビンA	2名1室	¥5,800 (税込)
■ハリウッドインテラスルーム	2名1室	¥9,100 (税込)
■コンフォートアイン	2名1室	¥8,680 (税込)
	3名1室	¥9,450 (税込)
■フォース	3名1室	¥11,550 (税込)
	4名1室	¥12,040 (税込)
■ファミリーテラスルーム	4名1室	¥15,400 (税込)
	6名1室	¥15,800 (税込)
	8名1室	¥16,100 (税込)
その他のタイプもございます。お問い合わせください。		
長期滞在プラン	【15泊プラン】	1名1室 ¥40,000 (税込)
	【30泊プラン】	1名1室 ¥78,000 (税込)

098-869-0701
cabinconstant-naha.com
constant-naha.com

所感：ホテルが地元の商店街や飲食店と連携し、宿泊者を地域へ誘導する形は、地域の魅力を最大限に活かすことが可能となる。

水俣市では「スポーツの街」として合宿の受け入れを行っているが、合宿利用者の多くは宿泊費を抑えたいというニーズを持つ。低価格帯の宿泊施設があることで、受け入れの選択肢が増える。それは現在のまちづくりの方向性にも合致するのではないかと。

また、ホテルのコミュニティスペースやラウンジを活用すれば、宿泊者同士や地元住民が自然に交流できる場となる可能性がある。水俣市を訪れる人々と地域の人々が触れ合うことで、観光と地域の結びつきを強め、さらなる地域活性化にもつながる事を考えられる。

6. 現地見学：糸満市場いとま〜る

概要：糸満市場いとま〜るは、1955年に開業した糸満市の公設市場を2020年7月にリニューアルした施設である。那覇空港から車で約20分の場所に位置し、精肉店、鮮魚店、かまぼこ屋、飲食店、衣料品店、雑貨屋など多様な店舗が集まる市場として機能している。市場内には、売り手と買い手が直接交渉して価格を決める「相対売りゾーン」が設けられており、昔ながらの販売方法を体験できる特徴的なエリアとなっている。また、多目的室や調理室を備え、ワークショップや料理教室などのイベントにも対応している。営業時間は9時から18時までだが、店舗によって異なる。駐車場も完備され、1時間100円で利用可能だが、市場内の発券機を利用すれば1時間無料となる。地元住民の日常の買い物から観光客の食事やショッピングまで、多彩なニーズに応える市場として親しまれている。



いとま〜るの施設内で昼食をとった。観光客が集まる市場というより、地域のコミュニティセンターのような雰囲気があり、地元の人々が日常的に集い交流する場になっている。特に、おばあちゃんたちが集まり、おしゃべりを楽しむ光景が印象的だった。

店主が赤ちゃんを連れて店を営んでおり、その赤ちゃんをお客さんのおばあちゃんが見守りながら他の人に紹介している様子が見られた。市場が単なる商業施設ではなく、地域のつながりを生む場として機能していることを強く実感した。

施設の外にも新しい店が増え、港町ならではの散策の楽しさを感じられるエリアになっている。商店街とは異なる雰囲気を持ち、地域と観光が自然に交わる場所として発展している印象を受けた。周囲の店舗を詳しく見ることはできなかったが、若い世代の来店も見られ、活気ある市場の姿が垣間見えた。

その地域の持つのんびりとした雰囲気を感じる事ができるとてもいい場所だった。

7. 現地見学：道の駅許田

概要：道の駅許田（みちのえき きよだ）は、沖縄県名護市許田に位置し、1994年に沖縄県初の道の駅として開業した。国道58号沿いにあり、沖縄自動車道の許田インターチェンジから車で約3分とアクセスが良好である。

施設内には「やんばる物産センター」を併設し、地元で採れた新鮮な野菜や果物、沖縄北部12市町村の特産品、お土産品を豊富に取り揃えている。また、フードコートやパーラーでは、ステーキや沖縄そば、天ぷら、ジェラートなど、沖縄の多彩なグルメを楽しむ。

2021年7月にはリニューアルが行われ、海側に展望広場や情報センターが新設され、より充実した施設へと進化した。年間約150万人が訪れる人気スポットであり、北部観光の拠点や休憩場所として、多くの人々に利用されている。



所感：道の駅許田は、国道58号沿いに位置し、沖縄本島北部への玄関口として、多くの観光客や地元の人々が立ち寄る。交通の要所にあることで、休憩や情報収集の場としての役割を果たすだけでなく、観光客の流れを生み出し、地域経済にも貢献している。

施設内には、沖縄の定番グルメや特産品が豊富に揃い、お土産の購入にも便利な環境が整っている。さらに、周辺の観光施設の割引チケット販売を行うことで、道の駅自体が観光の起点となり、次の目的地へと誘導する仕組みが確立されている。この道の駅を目的に来る観光客も多いとの事だ。

単なる休憩施設ではなく、地域の魅力を発信し、観光と経済をつなぐ重要な役割を果たしている点に、この立地の持つ大きな力を実感した。

8. まとめ

今回の沖縄県視察では、糸満市と名護市の行政施策、地域活性化の取り組み、そして商業・観光施設の実態を学び、市民や事業者が主体的に地域を盛り上げる仕組みが随所に見られた。特に、行政が関わりすぎず、市民の自主的な活動を支援する方法や、人材育成の重要性を強く感じた。

糸満市の「市民提案型まちづくり事業補助金」や「まちテラス」では、行政が直接ではなく中間支援機関を活用し、現場で活動する人々の意見を大切にしながらサポートする体制が整えられていた。行政が一步引き、地域の実情に即した支援を行うことで、市民の自発的な活動が促進され、地域コミュニティの活性化につながっていた。

また、名護市の小中一貫教育では、複式学級の解消を目的としつつ、4-3-2 制を導入し、教育環境の整備が進められていた。異なる年齢の子ども同士が自然と関わり合い、学び合う仕組みが確立されており、リーダーシップを学ぶ機会が設計されている点は、教育の質の向上に大きく寄与していた。制度設計だけでなく、それを実行する人材の育成が不可欠であることも改めて実感した。

今回の視察を通じて、「行政の関わり方」「市民や事業者の主体性の尊重」「意見を聴きまとめる人材の育成」が地域活性化において重要であることを再認識した。

水俣市においても、地域の強みを活かしながら、市民や事業者が主体的に活躍できる環境を整備し、行政が適切にサポートする仕組みを模索していく必要があるのではないだろうか。